

長岡税務署長賞

感謝すべき税金

長岡市立越路中学校

三年 藤澤 煌太

僕は今、何事もなく学校に通えている。机や椅子はもちろん、教科書も自分のものがある。授業を受けるのは当たり前権利だと思っていた。しかし、当たり前前に授業を受けることができない、そもそも学校に行けない国の人たちもいることをテレビを見て知った。

そこで、なぜ他国の人は学校に行けないのか調べたところ、アフリカの子どもたちについての話を見つけた。アフリカでは、新型コロナウイルスによる学校閉鎖に加え、親が学費や交通費を払えないこと、貧困によって児童労働を余儀なくされていること、結婚を迫られたり生理用品を買えないといった理由で女の子が中退していることなど様々な要因で約六七〇万人が学校に行けていないそう。さらに、今年六月には、東アフリカのウガンダという国で学校襲撃が起こり、生徒が少なくとも三七人死亡したというニュースを見つけた。襲撃と聞くだけでも恐怖でしかないが実際に起こっていることに驚いた。最近では一九〇の国と地域で子どものために活動するユニセフが目指す「子どもにやさしい学校」というのがあるそうで、目に見えるものから長く時間がかかるものまで、子どもたちが安心して学べるように、地域の人々と支援活動している。

今自分たちが当たり前のように学校に行けて友達と会えているのは当たり前幸せではないことに気づかされた。また、その幸せは「税金」のおかげだということにも気づかされた。「税金が高くなる」というニュースをよく耳にし、税金は悪いものだという印象だったが僕たちの生活を支えている「なくてはならない存在」だと学んだ。報道では、「税金が高くなって生活が苦しくなる」という悪い面を強調するのではなく、「身の周りから国をよくしていくものだ」という使い道を強調すればよいと思う。国は「使い道」は国民が納得するようなものにしていく責任が非常に重いとも感じた。最後に、今回の作文を通して一つ思ったことがある。僕は今まだ将来の夢が決まっていないが、いつかは誰かのため、国のために役立てるよう、今できる勉強・努力をしていきたい。世界には色々な環境で暮らしている人たちがいて、今こうして当たり前のように勉強をできていることもまた「税金」によって支えられていることに感謝し、将来、自分自身がしっかりと納税して日本を支える一員になれるよう、まずは第一志望校合格を目指して頑張りたい。